

東燃ゼネラル石油株式会社

2013年12月期第3四半期決算概要

2013年11月14日

取引の記載・見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の事業に関わる計画、見通しについては、本資料作成時における当社の見通しに基づき記載しておりますが、日本および世界経済の動向、原油および製品価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく左右される業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。



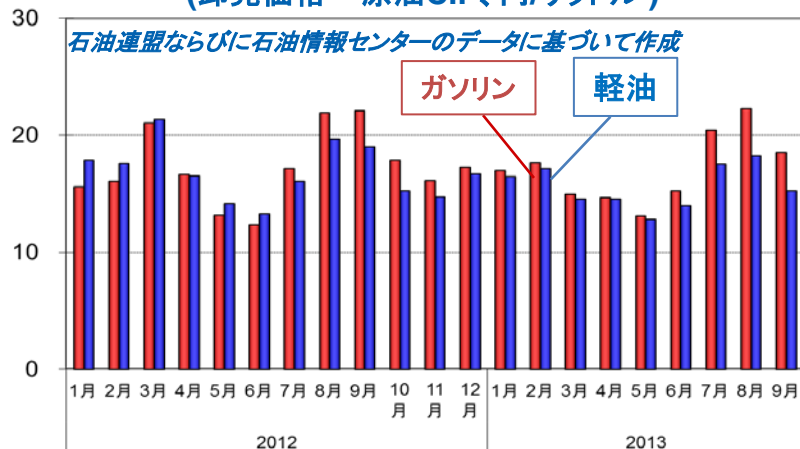
東燃ゼネラル石油株式会社

2013年7-9月期のハイライト

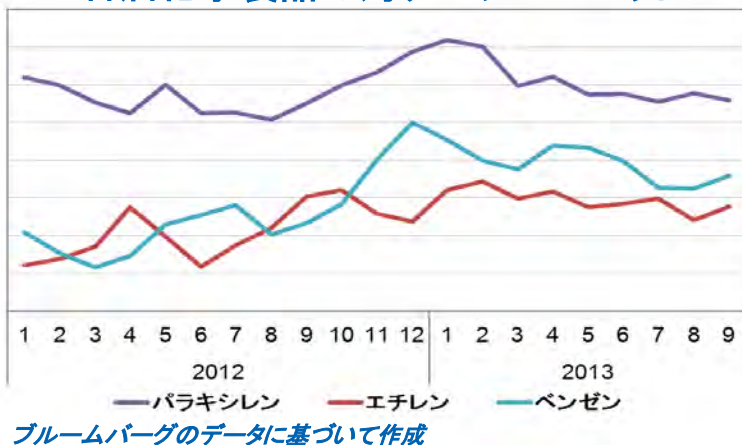
- 国内需要低迷および9月の石油製品マージン低下に対応し原油処理を抑えた結果、設備稼働率は87%(停止している廃棄予定の常圧蒸留装置2基を除く)
- 石油製品マージンの回復は緩やか、良好な石油化学製品マージンおよび在庫評価益が下支えするも、7-9月期の営業利益は当初予想を下回る
- 石油製品輸出への注力を継続、1-9月の輸出量は全販売数量の22%に
- セブン-イレブン複合サービスステーションは7-9月期に4店舗増加(1-9月期では12店舗)
- 東燃ゼネラル石油株式会社と東燃化学合同会社が、省エネ法に基づくエネルギーベンチマーク達成事業者に認定
- コスモ石油株式会社および三井石油株式会社と、コスモ石油千葉製油所と極東石油工業千葉製油所の共同事業検討に関する覚書を締結
- 1-9月期の統合効果は想定を上回る81億円を達成

2013年7-9月期の事業環境

国内石油製品マージンの推移 (卸売価格 - 原油CIF、円/リットル)



石油化学製品の対ナフサ スプレッド



石油事業

- 原油価格はほぼ横這い、製品価格が上昇した事により、7-9月期の国内マージンは回復
 - 対4-6月期比(価格):原油 +0.4%、ガソリン +7.8%、軽油 +4.4%
 - 9月は需要低迷によりマージン低下
- 1-9月期の国内燃料油需要(主要5油種)は前年同期比6.1%減
 - C重油 22.5%減、ガソリン 1.3%減
 - 軽油 1.3%増
- 製品輸出マージン:軽油およびジェット燃料は国内に比べ良好な状況が続いたものの、重油は悪化

石油化学事業

- 芳香族マージン:7-9月期は4-6月期比微減も堅調な水準を維持
- オレフィン類のマージンは引き続き低迷
 - ブタジエンは乱高下、エチレンは若干悪化、プロピレンはやや回復

2013年1-9月期決算概要

- 販売数量の増加および円安に伴う製品価格上昇により売上高増
- 営業利益は495億円、前年同期比 426億円増
 - 原油価格上昇および円安により在庫評価益が増加 (前年同期比442億円増)
 - 石油化学事業は良好な基礎化学品マージンにより増益 (前年同期比149億円増)
 - 石油事業は主に国内マージン低迷により減益 (前年同期比 79億円減)
 - のれん償却費は償却期間の違い(2012年7-9月、2013年1-9月)により85億円増加
- 営業外損益は、円安による為替差損および支払利息を持分法利益で一部相殺

億円	'12 1-9月期	'13 1-9月期	増減
売上高	20,417	24,105	3,687
営業利益	69	495	426
経常利益	61	469	407
特別損益	163	3	-160
当期純利益	84	256	172

(営業利益の内訳)

在庫評価損益	-51	390	442
のれん償却	-42	-127	-85
調整後営業利益	163	232	70
石油事業	168	89	-79
石油化学事業	-6	143	149

石油事業	
'12 1-9月期	168
・マージン	-191
・数量	12
・経費	78
・EMGM	22
'13 1-9月期	89

石油化学事業	
'12 1-9月期	-6
・マージン・数量	127
・経費	22
'13 1-9月期	143

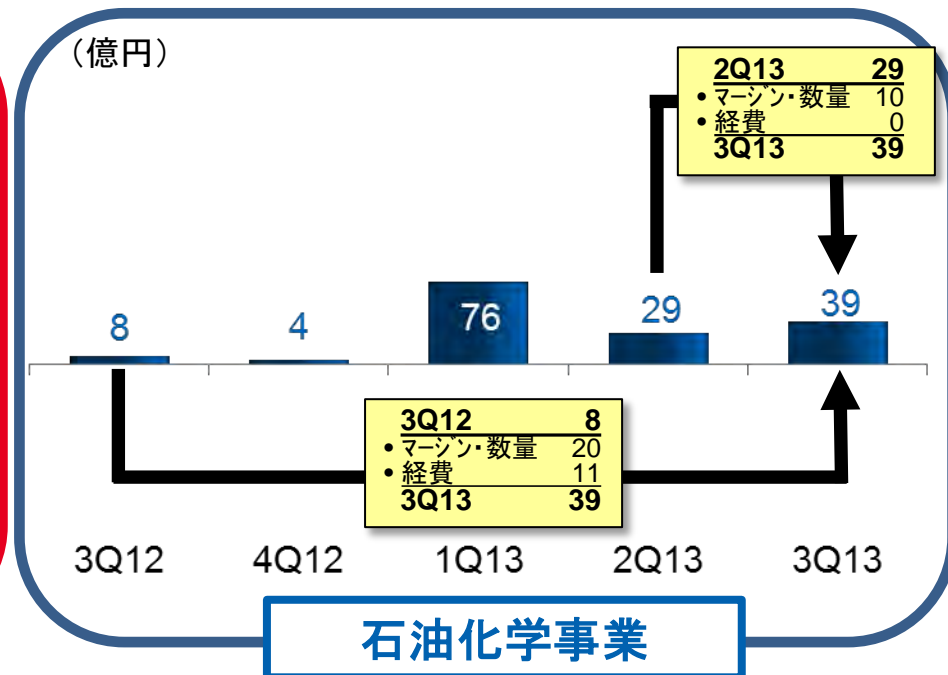
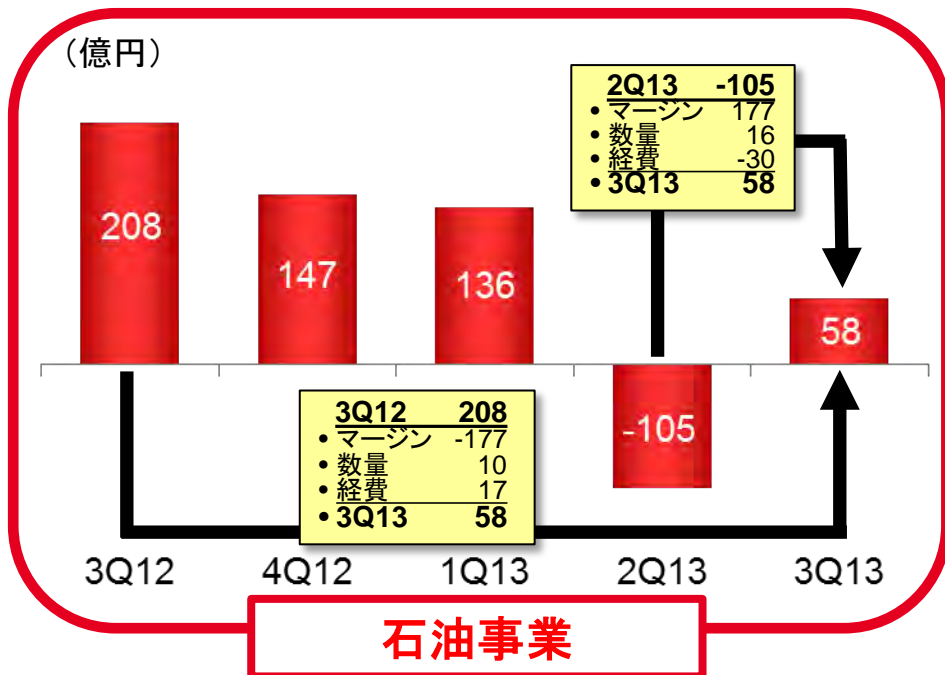
2013年7-9月期調整後営業利益増減の要因分析

石油事業

- '13年4-6月期比：国内マージンは改善 / 輸出マージンは同水準
- '12年7-9月期比：国内マージンは低下 / 輸出マージンは良好

石油化学事業

- '13年4-6月期比：基礎化学品の良好なマージン継続
- '12年7-9月期比：基礎化学品(ブタジエンを除く)のマージンは円安により改善



販売数量 ^{*1}

製品	'12 1-9月期	'13 1-9月期	増減	増減
石油製品 (千KL)				国内全体
ガソリン	8,156	7,678	-5.7%	-1.3%
灯油	2,130	1,884	-12.3%	-8.0%
軽油	2,351	2,399	+2.0%	+1.3%
A重油	1,320	1,105	-16.3%	-7.4%
C重油	1,607	1,673	+3.8%	-22.5%
LPG、ジェット他	2,301	2,844	+23.6%	
国内販売合計 ^{*2}	17,866	17,584	-1.6%	
輸出	3,773	4,904	+30.0%	
石油製品	21,639	22,488	+3.9%	
石油化学製品 (千トン)				
オレフィン類他	1,180	1,220	+3.3%	
芳香族類	484	559	+15.5%	
特殊化学品	195	184	-5.4%	
石油化学製品	1,859	1,963	+5.6%	
設備稼働率 ^{*3} (常圧蒸留装置ベース)	67%	87% ^{*4}		

□ 1-9月期の全販売数量に対する輸出比率は22%
(前年同期は17%)

- 国内に比べ良好なマージンを確保、7-9月期の軽油/ジェット燃料輸出数量は四半期として過去最高
- ガソリンは採算を考慮し輸出に一部シフト

□ ガソリンから石油化学製品へのシフトに注力

- 芳香族類を81千トン増産
(ガソリン93千KLに相当)

*1 2012年1-6月期もEMGMを連結していたと仮定した場合の販売数量

*2 保税品販売は国内販売数量に含む

*3 東燃ゼネラル石油3工場の稼働率

*4 川崎と和歌山で廃棄予定の常圧蒸留装置2基を除いた稼働率

2013年連結業績予想

□ 2013年通期の営業利益予想は520億円、8月発表から変更なし

- 石油事業 : 7-9月期と10-12月期のマージン低迷を反映し140億円減
- 在庫評価損益 : ドバイ原油 \$108/バレル、為替レート 99円/ドルで算出し140億円増
- 石油化学事業 : 芳香族の先行き不透明なマージン環境を反映

(億円)	'13 1-9月 実績	通期予想		8月発表 比増減	
		8月発表	今回発表		
売上高	24,105	32,000	32,000*	0	} 8月発表から 変更なし
営業利益	495	520	520	0	
経常利益	469	480	480	0	
特別損益	3	0	0	0	
当期純利益	256	250	250	0	

(営業利益の内訳)

在庫評価損益	390	260	400*	140
のれん償却	-127	-170	-170	0
調整後営業利益	232	430	290	-140
石油事業	89	280	140	-140
石油化学事業	143	150	150	0

* 2013年9月のドバイ原油価格(108ドル/バレル)および為替レート(99円/ドル)が2013年末まで継続するとの前提で算出

□ 一株当たり年間38円の配当予想は変更なし

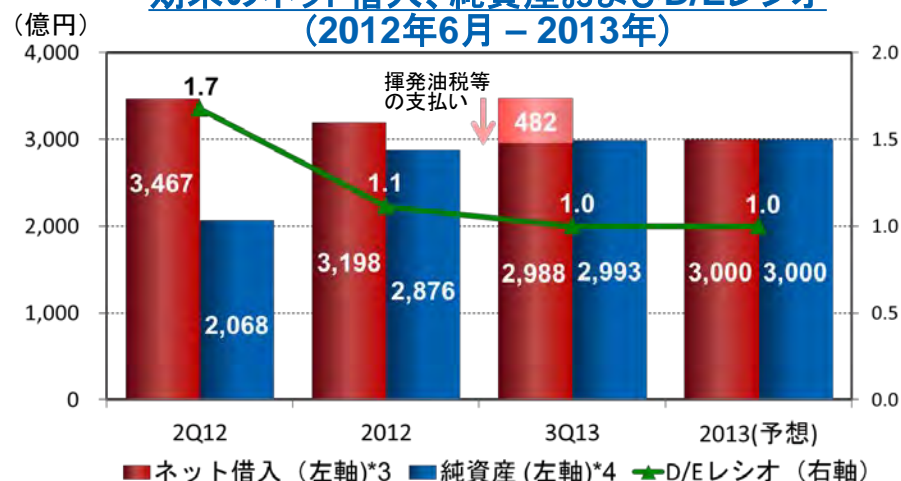
キャッシュ・フロー、D/Eレシオ

- 2013年1-9月期の調整後フリー・キャッシュ・フローは415億円
 - 年末には解消される揮発油税等の9月支払分482億円を調整
 - 調整前フリー・キャッシュ・フローはマイナス67億円
- 2013年末の財務状況は、借入がピークであった2012年6月末から改善の見込み
 - D/Eレシオは1.7から1.0に改善
 - ネット借入は467億円減
 - 2012年6月以降も安定配当(総額204億円)は継続

'13年1-9月期キャッシュ・フロー (億円)

税引前純利益	472
減価償却費 / (固定資産の取得)*1	191
在庫(増加) / 減少	-630
運転資本(増加) / 減少	190
法人税の還付 / (支払)	173
その他	19
調整後フリー・キャッシュ・フロー*2	415
揮発油税等の9月支払分調整	-482
フリー・キャッシュ・フロー*2	-67
配当金の支払	-135
ネット借入³の増加(減少)等	202

期末のネット借入、純資産およびD/Eレシオ (2012年6月 - 2013年)



*1 のれん償却を含む
 *2 営業活動および投資活動によるキャッシュ・フローの合計
 *3 借入金から現金および現金等価物を差し引いて算出
 *4 純資産から少数株主持分および新株予約権を差し引いて算出

補足資料

2013年連結業績予想の前提と感応度

□ 今回の業績予想の前提

主な項目	単位	前提	中期
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル / バレル	108	2013年9月平均
為替レート	円 / 米ドル	99	2013年9月平均

上記前提は、売上高および在庫評価損益の計算に使用

□ 前提の変化に伴う利益への影響額(年間換算)

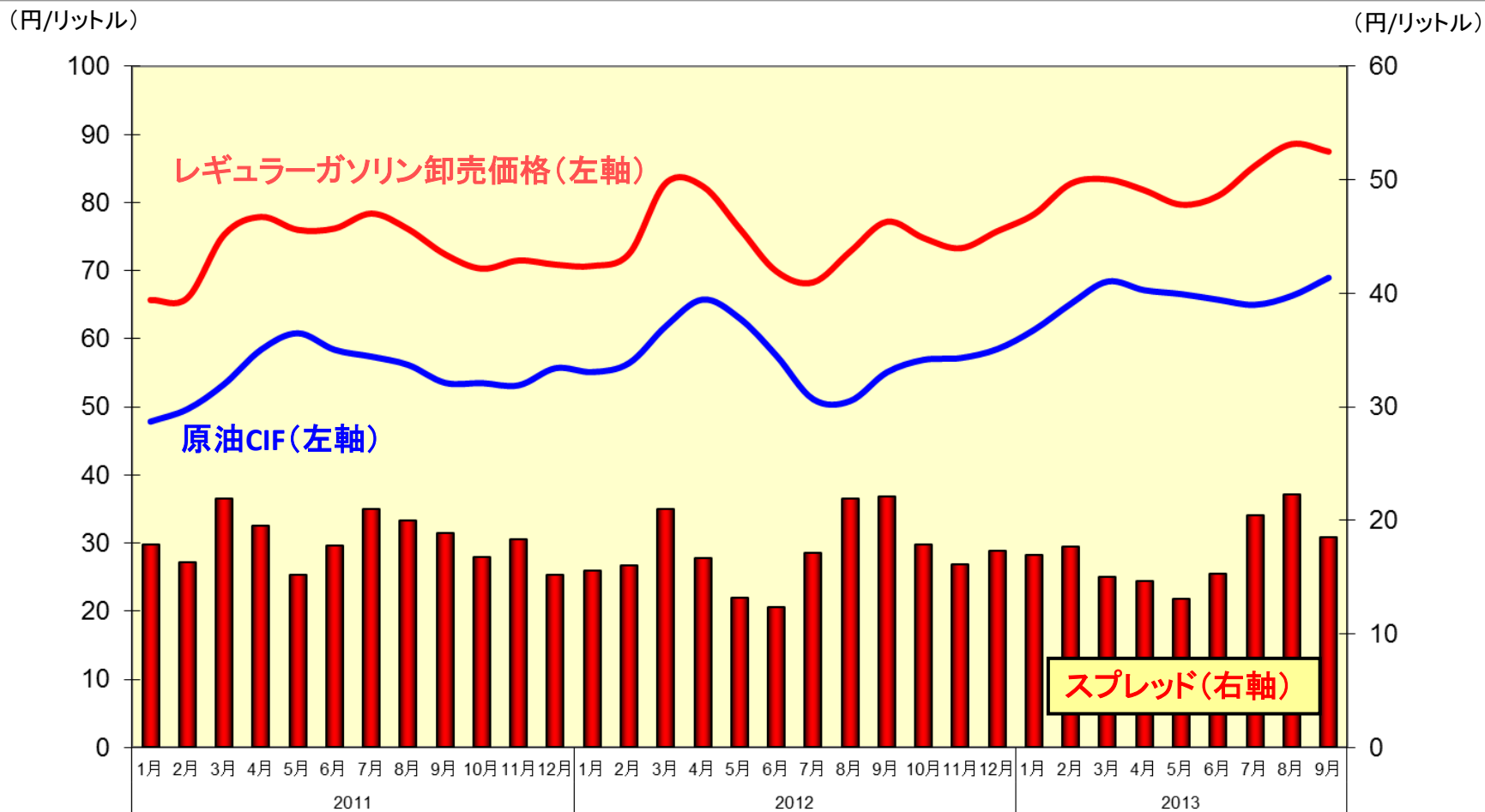
主な項目	単位	上昇幅	年間換算影響額(億円) 営業利益 / 経常利益*1
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル / バレル	10	220 / 240*2
為替レート	円 / 米ドル	10	-240 / -260*2
精製マージン	円 / リットル	1	320*3

*1 営業外損益に含まれる極東石油工業の持分法損益(50%持分税引後)を含む

*2 在庫評価損益の影響のみ。原油価格変動のタイミングや在庫数量によっては異なる結果となりうる

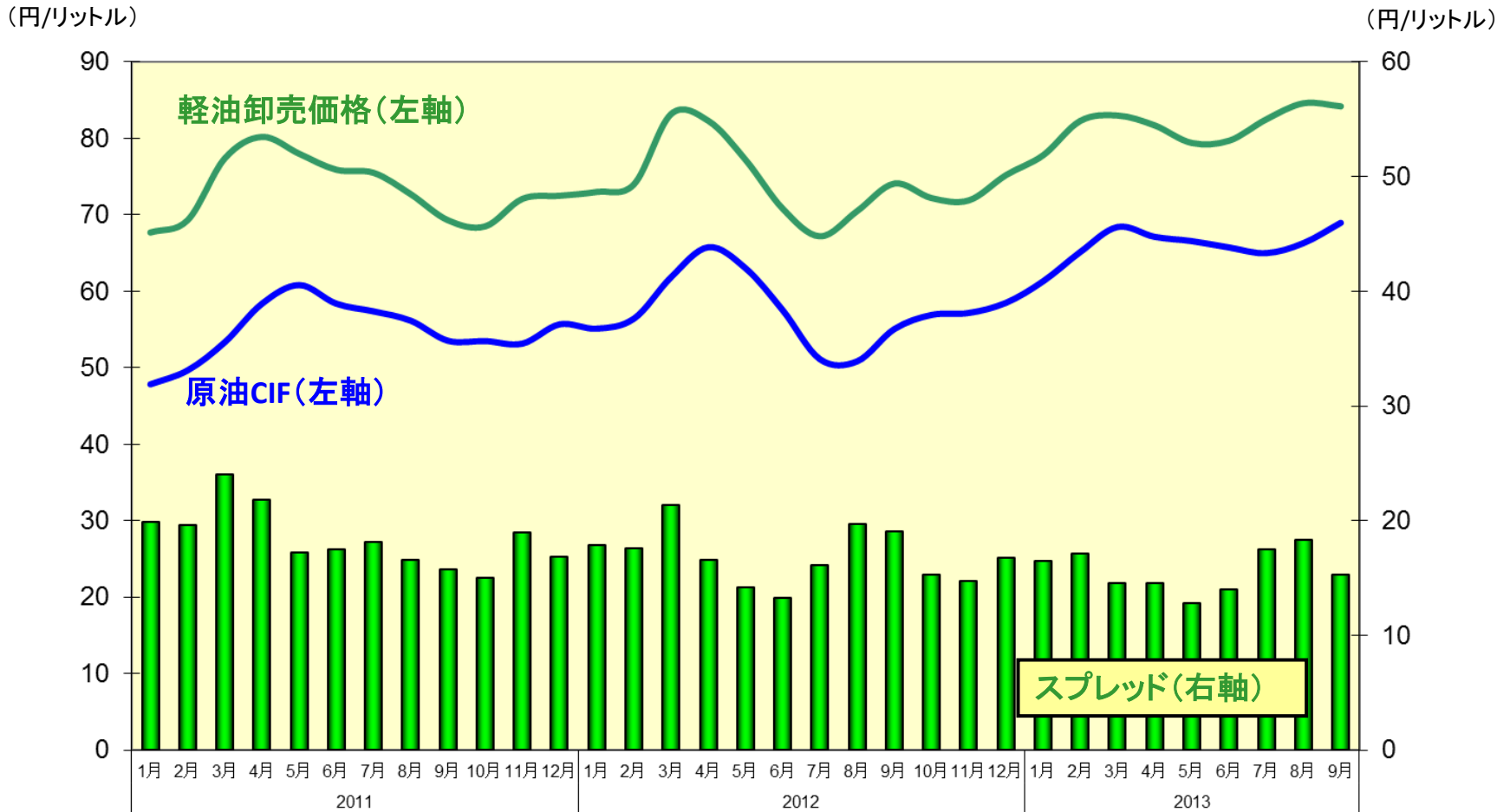
*3 営業利益への年間影響額は10億円単位の概算であり、販売数量の増減によっては異なる結果となりうる

価格スプレッド (ガソリン卸売価格－原油CIF)



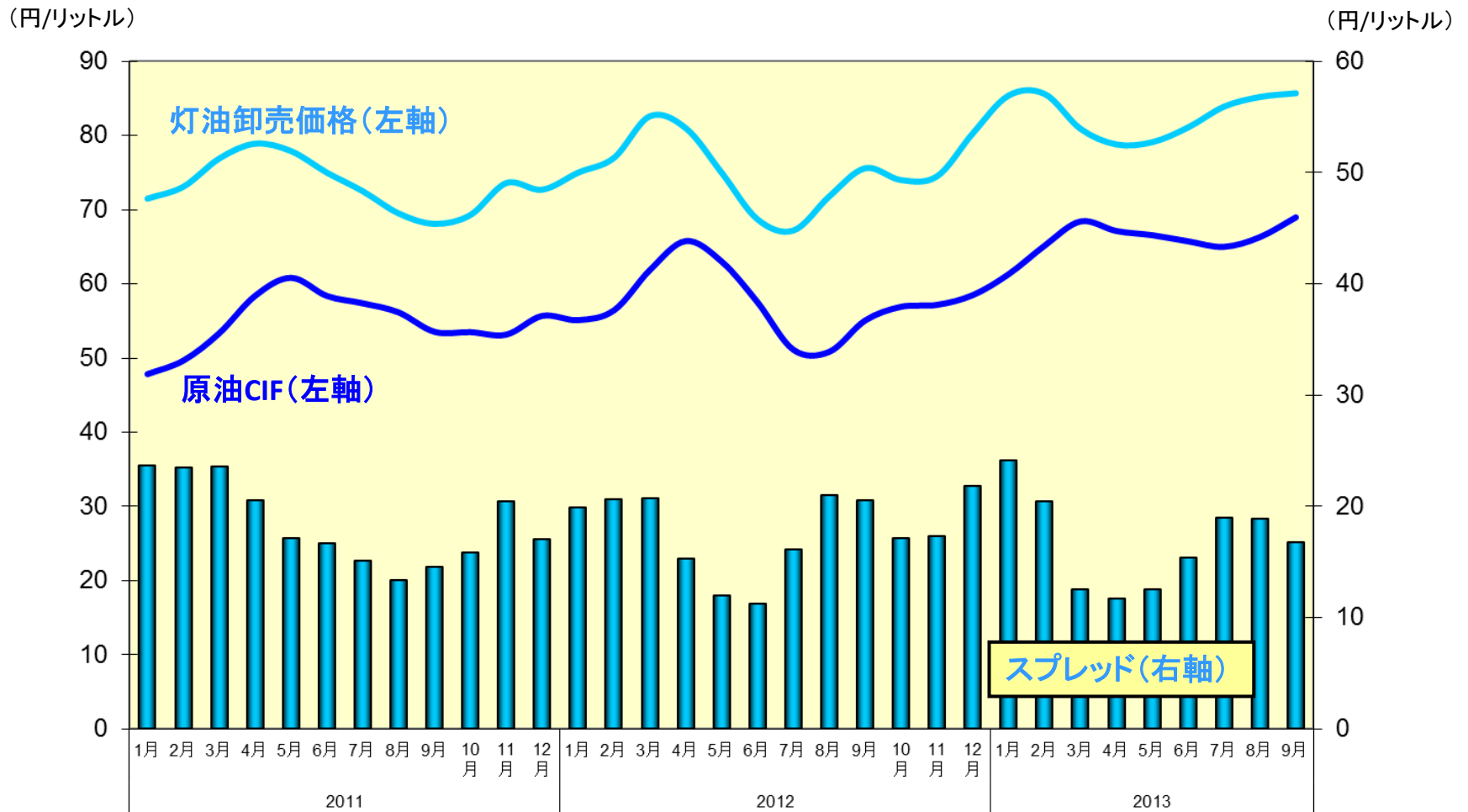
注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

価格スプレッド（軽油卸売価格－原油CIF）



注：石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

価格スプレッド (灯油卸売価格－原油CIF)



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

営業利益内訳 (2011年 – 2013年7-9月期)

2013年

(単位: 億円)

営業利益内訳	'13 1-3月期	'13 4-6月期	'13 7-9月期	'13 10-12月期	'13 通期	'13 1-6月期	'13 1-9月期
石油部門 (実質)	136	-105	58			31	89
石油化学部門 (実質)	76	29	39			105	143
在庫関連損益	257	1	132			259	390
のれん償却	-42	-42	-42			-85	-127
総合計	427	-118	186			309	495

2012年

営業利益内訳	'12 1-3月期	'12 4-6月期	'12 7-9月期	'12 10-12月期	'12 通期	'12 1-6月期	'12 1-9月期
石油部門 (実質)	91	-130	208	147	315	-40	168
石油化学部門 (実質)	21	-35	8	4	-1	-14	-6
在庫関連損益	192	-283	40	95	44	-91	-51
のれん償却	-	-	-42	-42	-85	-	-42
総合計	304	-448	213	204	273	-144	69

2011年

営業利益内訳	'11 1-3月期	'11 4-6月期	'11 7-9月期	'11 10-12月期	'11 通期	'11 1-6月期	'11 1-9月期
石油部門 (実質)	107	-18	87	64	241	89	177
石油化学部門 (実質)	72	5	-24	-23	30	77	53
在庫関連損益	1,732	280	-122	1	1,891	2,012	1,890
総合計	1,911	267	-59	42	2,162	2,178	2,120